

建物検討から浮かぶ実像

佐川 正敏氏
戦時下の四面廂付建
物の性格について、まだ
確定されていない部分も
ある。本堂さんから、一
番北側の縦街道南区域の

第三沢のすぐ北側の大型
建物について、寺院の可
能性も捨てきれないとい
うご発言もあった。

本堂さん、高橋学さん
からも大鳥井山遺跡の山
の頂上の建物が、何らか
の宗教的な施設であった
可能性も提示されたが、
そのあたりについてのご
意見を聞かせていただき
たい。

本堂 寿一氏
自分の家に仏壇や神棚
があるように、信仰の施
設というのはあってい
い。古墳群のそばにある
というのが重要だと思
う。



原添下区域南東部から見つかった2棟の建物跡を中心に検討を深めた鳥海柵跡シンポジウム

一番立地がいいところ
に建てるのであれば、南
側の中央部に建てれば良
かったのに、なぜずっと
北の方に建てたのか。私
はやっぱり、古墳群と関

係があったのではないかと
考える。鳥海柵の安倍
宗任の先祖が、古墳群の
出身だとは言わないま
も、みんなが一致団結す
るシンボルとして、お墓
を継承するということは
あるのではないかと。

佐川 正敏氏
第一沢を挟み、L字型
の堀で囲まれた原添下区

域の南側に位置する鳥海
区域の中央部は、櫓や
塀は見つかるが、肝心の
建物が出てこない。これ
については、テントのよ
うなものが兵舎の代わり
に使われたことで痕跡が
見つかりにくいというよ
うな指摘もあった。

佐川 正敏氏
鳥海柵には二つの大き
な工房エリアがある。鉄
器、武器が製造されてい
た可能性が高く、土器な
ど生活に密着したもので
城内で作っていたと考え
られる。今回検討した四
面廂付建物は、儀式と同
時に生活の場の可能性、
宗教的な性格も考えてお
く必要があるだろうとい
う意見が出された。

千田先生から城郭都市
という話も出てきた。鳥
海柵の周りに、一般の人
の生活や交易、北上川を
利用したルートがあった
かなど、今後に対する展
望が開けたシンポジウム
だった。

相原 康二氏
志波城の中心線から西

（5月から連載してきた
「考察 全盛期の中心的
建物」は今回で終了しま
す。菊池藍が担当しまし
た）

城内にはいろいろな施
設があったのだろう。原
添下区域中央部の旧金ヶ
崎中学校の跡地でも、倉
や厨など本来あるべき安
倍氏の日常生活関連施設
がまだ発見されていない
のではないかと。整備も優
先させながら、10年20年
という長いスパンでみな
さんの応援を得ながら、
調査を続けていただきたい。

金ヶ崎の国指定史跡 鳥海柵跡

考察 全盛期の中心的建物

2017年度 シンポジウムより

20

パネルトーク要旨 Ⅲ

登壇者

- コーディネーター
佐川正敏氏 (東北学院大学教授)
パネリスト
千田嘉博氏 (奈良大学教授)
本堂寿一氏 (国史跡鳥海柵整備委員会委員長)
大平 聡氏 (宮城学院女子大学教授)
相原康二氏 (えさし郷土文化館長)
高橋 学氏 (秋田県埋蔵文化財センター副所長)
箱崎和久氏 (奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長)
浅利英克氏 (金ヶ崎町教育委員会)